



多くの恵みをもたらしてくれる自然を、私たち1人ひとりが大切にしたい!と思うことが、地域の自然を守っていく第一歩となるはずです。

本コーナーは、平岡幼稚園が行った2019年夏季のアクションと地域の自然観察スポットの情報等を盛り込みました。皆様の自然体験の一助になれば幸いです。

地域の自然を知ろう!守ろう!伝えよう!

平岡いきものはっけん隊

アクションレポート

Action Report

2019.6月~8月

7/28、金目川生き物観察会にて

① Action こども環境教室 里山体験

2019年8月3日(土)に行われた平塚市環境政策課主催の「こども環境教室 里山体験」に、子どもたちを誘って参加してきました。開催場所である里山体験フィールドは、里山に加えて谷戸の低湿地帯もあるので、森と水辺、両方の生きものに出会うことができます。

昔の楽しい里山遊びコーナーもあり、サンゴジュの実が飛び出る空気砲や、葉っぱのお面、ブンブンゴマ、スイカ割りなど、お楽しみがいっぱいありました。



木の実鉄砲作り



里山の
工作教室

ブンブンゴマづくり

ホの実鉄砲
できたよ~!!

ポン!



谷戸

里山

「湧き水が豊富な谷戸」と
「適度に管理された里山環境」で
生き物探し



かわいい
ヒグラシの
ぬげがら



マユタテアカネ未熟♀



オニヤンマの
ぬげがらはデカイ!



シオカラトンボ♂(右)と
オオシオカラトンボ♂(左)
とこが違うかな?



スイカ割りにも
挑戦!!

割ったスイカはみんなでいただきました

こども環境教室 里山体験って?

平塚市環境政策課が毎年、里山体験フィールドで行っている公募イベントです。多様な生き物が棲む平塚の里山で、生き物探しをしたり、里山遊びを楽しみます。

毎年、広報ひらつかで参加者募集をしていますので、ぜひ来夏に参加してみたいかかでしょうか?

Action ②

日本セミの会で「セミ類の研究結果」を発表

2019年6月22日(土)に横浜市開港記念館で行われた日本セミの会 第91回談話会において、平岡幼稚園の園児たちと2014年～2018年にかけて行った「平塚市のセミのぬけがら調査」と、2015年から継続実施中の「神奈川県におけるハルゼミの生息状況調査」について発表を行いました。

これらの調査結果は、既に平塚市博物館研究報告 自然と文化 第38～42号にて報告されていますが、各調査を大まかではありますが、総括してお話しました。



園児、保護者、市民の皆さんと一緒に調査活動を行い、多くの知見が得られました。

日本セミの会って？

『日本セミの会 Japan Cicada Club』は、1978年に創立した日本で唯一のセミ類の研究会・同好会です。本会は、セミの研究者や愛好者で組織され、セミおよび近縁の昆虫に関するあらゆる研究の促進、ならびに正しい知識の普及を図ることを目的としています。

Action ③

「セミのぬけがら図鑑づくり教室」in ひらつか環境フェア

2019年7月15日(月祝)に平塚市役所で開催された「ひらつか環境フェア2019」に、「セミのぬけがら図鑑づくり教室」を出展しました。

この図鑑は、台紙を折って、切って、製作する簡単なものですが、この1冊で平塚市内に生息する夏季に見られるセミ類全6種のぬけがらの種類・性別が完全に見分けられてしまう、優れものです。ご覧になりたい方は、平岡幼稚園、もしくは神奈川県立生命の星・地球博物館ライブラリー(登録番号:26926/請求番号:486.5ホ)まで。



この台紙を折って、切って、作ります



この図鑑、簡単に作れるんだね!



作った図鑑で見分けに挑戦!

ひらつか環境フェアって？

市民一人一人が環境に配慮した生活を実践していくための切っ掛け作りの場として開催されています。平岡幼稚園では、来年も同教室を開催予定です。ぜひご来場ください。お問合せ先:平塚市環境政策課 0463-21-9762

Action ④

平塚市3館コラボ「平塚の人と自然」

「平塚市3館コラボ」とは、平塚市博物館・平塚市図書館・平塚市美術館の文化ゾーン3館が「平塚の人と自然」をテーマに夏休み期間にコラボする企画です。

平岡幼稚園の行っている諸活動が、平塚市博物館「平塚学入門」、平塚市図書館「平塚に関する本“人と自然を中心に”」に採用されましたので、ご紹介いたします。

●平塚市博物館 特別展「平塚学入門」

平塚学の一つとして、平岡幼稚園と平塚市博物館が行った「セミのぬけがら調査」が取り上げられています。

1980年から2018年までの市域のセミ類の分布の遷移の様子がわかりやすく展示解説されています。詳細は、特別展図録にも掲載されています。

●平塚市図書館「平塚に関する本人と自然を中心に」

3階の特設コーナーに、平塚の人と自然に関する所蔵図書として本誌(第1～13号)が展示されました。湘南自然誌は、平塚市中央図書館の1階「こども室」、3階「参考室」に配架されています。



平塚市博物館 平塚学入門 セミのぬけがら調査の展示



3階特設コーナー 平塚市図書館



Action ライトトラップ観察会（里山体験フィールド）

毎年恒例、ライトトラップ観察会を行いました。場所は、昨年と同じく平塚市土屋の里山体験フィールドです。今年は天気恵まれず、当初実施予定だった7/13（土）が雨で、その後も雨で2回延期となり、8/4（日）にようやく実施することができました。

生き物はそれほど多くは集まりませんでした。大磯丘陵初記録となるフタモンクビナガゴミムシ（神奈川虫報に投稿中）等、色々な種類の生き物が観察できました。その他、トラップ観察の合間に夜の里山や谷戸も探検して、子どもたちと一緒に夏の生き物と存分にふれあって楽しみました。

最後になりますが、同地での開催を許可いただき、観察会のお手伝いもしていただいた里山をよみがえらせる会会長の荒井啓三氏、ひらつか生物多様性推進協議会昆虫班の皆さま、ありがとうございました。



夜なのに虫がたくさんきてすごかった！（園児）



フタモンクビナガゴミムシ



ツノトンボ♂



ミヤマカミキリ



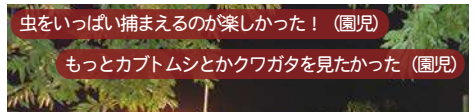
カブトムシ♀



ニイニイゼミ



ノコギリクワガタ



虫をいっぱい捕まえるのが楽しかった！（園児）

もっとカブトムシとかクワガタを見たかった（園児）

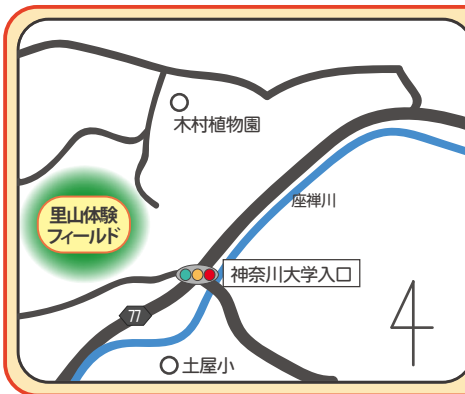


ライトトラップ観察会参加者の皆さん



セミも集まってくるのには驚きました（園児母）

ライトトラップは初めての経験で、楽しかったです。（園児父）



里山体験フィールドって？

産業廃棄物や残土で埋め尽くされていく谷戸、人がかかわらなくなった里山を、昔の姿によみがえらせ、里山で遊んだ子ども文化を残そうと、平成12年に「里山をよみがえらせる会」が土屋字寺窪の山林を借り受け、里山の維持・管理作業を行っているフィールドです（私有地）。

Action 出張ライトトラップ～夏休み「海と山の探検隊」

土屋公民館・須賀公民館の共働事業のお手伝いで、平塚市立びわ青少年の家でライトトラップ観察会を出張しました。

月が明るかったためか、思ったほどの成果はありませんでしたが、セミ類4種（アブラゼミ・ニイニイゼミ・ヒグラシ・ツクツクボウシ）が来たり、珍しいコカブトムシや県内の丘陵地～平地では初記録となるギンモンスズメドキ（神奈川虫報に投稿中）が確認されるなど、参加者の子どもたち、保護者の皆さんも楽しんでくれて良かったです。



ギンモンスズメドキ



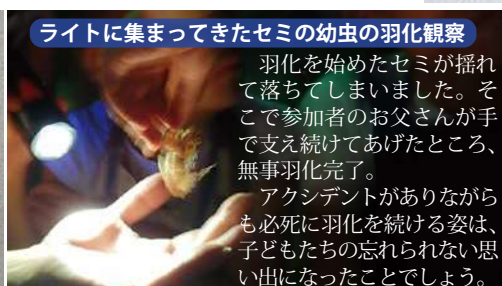
ケラ



出張依頼は平岡幼稚園まで（予定が合えば無償で出張します！）



カブトムシの仲間
コカブトムシ♂



ライトに集まってきたセミの幼虫の羽化観察

羽化を始めたセミが揺れて落ちてしまいました。そこで参加者のお父さんが手で支え続けてあげたところ、無事羽化完了。
アクシデントがありながらも必死に羽化を続ける姿は、子どもたちの忘れられない思い出になったことでしょう。

ライトトラップって？

光に集まる生きものをライトを使っておびき寄せて観察する手法です。（平岡幼稚園では蛍光灯・水銀灯・ブラックライトの3種を使っています。）
定番のコガネムシ類、カミキリムシ類、クワガタ類、蛾類だけでなく、セミ類、バッタ類、アミメカゲロウ類など、何が来るかわからない楽しさがあります。

⑦ Action ヘイケボタル観察会

2019年7月5日(金)、7月12日(金)の2回、平塚市土屋でヘイケボタル観察会を行いました。

ホタルと言えば小川で発生するゲンジボタルが有名ですが、ヘイケボタルは湿地で発生するため、乾田化や湿地の消失によって県内では減少著しい種です。オス・メスによる発光器の違い、行動の違いなどを観察しながら、初夏の夕べに輝く幻想的なヘイケボタルの光をみんなで楽しみました。



ヘイケボタルって?

湿地・湿田の減少、農薬散布によって各地で姿を消しており、神奈川県レッドデータ生物調査報告書2006では、準絶滅危惧となっています。
本種の棲息地は平塚市内ではわずか4箇所しかありません。ヘイケボタルとゲンジボタルは、胸部の黒い筋の太さで見分けられます。



⑧ Action 金目川生き物観察会

金目川生き物観察会は、金目・みずほ小学校の児童、平岡幼稚園の園児を対象とした平塚市環境政策課と金目川水系流域ネットワーク主催のイベントです。東海大学の北野研究室、神奈川県環境科学センターの斎藤先生など、専門家の先生が講師として来て下さり、見つけた生きものについても色々教えてくれる楽しい観察会です。

今年も多く生き物(アユ・オイカワ・ウグイ・ニホンウナギ・ナマズ・ボウズハゼ・スミウキゴリ・ヌマチチブ・シマヨシノボリ・シマドジョウ・テナガエビ・ヒラテテナガエビ・モクズガニなど)が見られ、河川で発生するトンボ類のヤゴ(ハグロトンボ・オナガサナエ・コオニヤンマ・コシボソヤンマ・オニヤンマ)も見つかりました。金目川の水が綺麗になっていることをみんなで体感できたことと思います。多様な生き物たちが棲む金目川を、これからも大切にしていきたいですね。



わたしたちが遊んだ金目川はこんなところ!

金目川の水質は、近年大幅に改善され、多くの生きものが戻りつつあります。丹沢から流れる清流、金目川をこれからも大切にしていきましょう。
【注意】川で遊ぶのはとても楽しいですが、危険もたくさんあります。必ず大人と一緒に行きましょう。

Action 茅ヶ崎里山公園観察会 7.21 8.24

7.21「夏の花、夏の虫」

2019年7月21日(土)9:30～12:00、茅ヶ崎社外自然誌博物館主催の自然観察会に参加しました。この日のテーマは「夏の花・夏の虫」ということで、子どもたちに大人気のカブトムシやノコギリクワガタ、オニヤンマなど夏の生き物たちとふれあって遊んできました。

これからの社会は、自然と共生していくことが求められています。里山は私たちが心身豊かに生きるための大切なことを教えてくれる大切な学校と言えるでしょう。



8.24「夜の鳴く虫観察会」

8月24日の「夜の鳴く虫観察会」では、夕方～夜間に夜行性の生き物、鳴く虫の観察をしてきました。夕方たくさん鳴いていたセミ類は、暗くなるにつれてコオロギやキリギリスの仲間の声に替わっていきます。エンマコオロギ、マツムシ、ツツレサセコオロギ、アオマツムシ、クツワムシ、ハヤシノウマオイなど、たくさんの種類の鳴き声を聞くことができました。

樹液レストランでは、夕方はコガタスズメバチだけだったのですが、暗くなるとコクワガタやカブトムシの姿も確認でき、子どもたちも大興奮でした。



わたしたちが遊んだ
「県立茅ヶ崎里山公園」はココ!

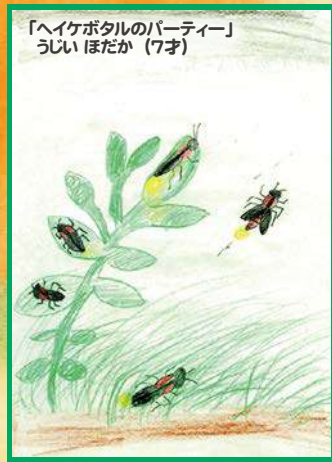
園内里山保全エリアでは多くの生きものが見られます。他に、大型遊具やバーベキュー場、お食事処もある大きな公園です。

茅ヶ崎市芹沢 1030
Tel: 0467-50-6058

自分が感じた自然の
楽しさや不思議を
絵に描いてみんなに
伝えてみよう！

絵画投稿コーナー
おえかきひろば

今回の表紙絵は、在園中に描かれた作品から教職員19名で投票を行い選出しました。



**生きもの絵画
大募集**
テーマは自然！
A4・縦向きで
裏に題名と氏名・年齢
を書いて
幼稚園まで持ってきてね♪

『湘南自然誌』バックナンバー

① デジタル版をダウンロード

平岡幼稚園のHPからPDFがダウンロードできます。

<http://hiraoka-kg.com/>



② 公共施設で閲覧

以下の公共施設に所蔵されています。(赤字は新収蔵先)

【図書館】国立国会図書館、神奈川県立図書館、横浜市立中央図書館、平塚市中央図書館、相模原市立図書館、茅ヶ崎市立図書館本館、大磯町立図書館、二宮町図書館、**藤沢市総合図書館**、**藤沢市湘南大庭図書館**、**藤沢市辻堂図書館**、**横須賀市立中央図書館**、**座間市立図書館**、**横浜女子短期大学図書館**、**※厚木市立中央図書館**、**※綾瀬市立図書館**

※印は一定期間の配架(蔵書登録なし)

【博物館等】県立生命の星・地球博物館、平塚市博物館、横須賀市自然・人文博物館、相模原市立博物館、あつぎ郷土博物館、大磯町郷土資料館、愛川町郷土資料館、**箱根町立郷土資料館**

【その他】神奈川県自然環境保全センター、神奈川県環境科学センター、県立秦野ビジターセンター、県立愛川ふれあいの村、秦野市立くずはの家、平塚市子育て支援センター、平塚市環境保全課、平塚市立岡崎公民館、金沢自然公園ののほな館、**箱根町立森のふれあい館**

③ 平岡幼稚園にて頒布

希望者には無料でひとり1部に限り、園にてお渡ししています。(※ 要事前連絡) ikimono@hiraoka-kg.com もしくは 0463-58-1188(担当:園長)まで

誤：カナムグラの実



正：ヤエムグラの実

訂正

本誌Vol.13のP1『四季のたより』コーナーの左記写真キャプションが「カナムグラの実」となっていますが、正しくは「ヤエムグラの実」でした。お詫びして訂正いたします。

平岡いきものはっけん隊 NEWS

平塚市図書館コラム

「MOTTOもっと図書館」に本誌が登場!

“広報ひらつか”の「MOTTOもっと図書館」は、平塚市図書館の蔵書から毎月1冊を紹介するコラムです。

広報ひらつか8月号(No.1132)に『暑い夏でもあえて外に出掛けたい雑談』『自由研究の題材が決まっていないうおさんや大人になって虫とふれあう機会がなくなった方にもお薦めの一冊』として本誌が紹介されました。



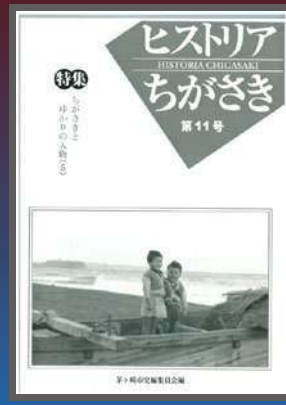
広報ひらつか 1132号
(画像提供:平塚市)

本誌が茅ヶ崎市史文献目録に収録されました

本誌Vol.18で茅ヶ崎市在住の稲川先生に取材した特集「球界一のチョウ収集家～元大洋ホエールズ投手稲川誠先生に伺う～」が茅ヶ崎市史文献目録(42)に収録されました。

私たちの活動がまた一つ、地域の歴史に残ることになりましたこと、ご報告いたします。

平山孝道, 2019. 茅ヶ崎市史文献目録. ヒストリアちがさき(11): P94-99.



平岡幼稚園の紹介

平塚市北部の伊勢原台地南端の麓に位置する我が園には、台地斜面から湧き水が染み出し、元々の表土も多く残されるなど、豊かな自然環境が保存されています。2009年より園地をビオトープにして、周囲に住む多様な生き物呼び込みながら、子どもたちと一緒に地域の自然環境を保全する活動を行っています。昭和42年開園、学園地総面積7,501㎡。

- 【受賞歴】2012年 全国学校・園庭ビオトープコンクール2011「奨励賞」受賞
2014年 全国学校・園庭ビオトープコンクール2013「日本生態系協会賞」受賞
" 関東・水と緑のネットワーク拠点100選に「平岡幼稚園ビオトープ」が選定
2015年 生物多様性日本アワード 最終選考
2016年 全国学校・園庭ビオトープコンクール2015「日本生態系協会賞」受賞
2018年 全国学校・園庭ビオトープコンクール2017「日本生態系協会賞」受賞
2019年「かながわ地球環境賞」受賞

平岡いきものはっけん隊の紹介

平岡幼稚園の全園児・全教職員・卒園児で構成される本隊は、各界有識者の助力を得ながら、子どもたちの自然体験の充実を図ると共に、地域の自然を大切にしていける活動を行っています。

本誌の発行もその活動の一環です。毎号子どもから大人まで楽しく自然の面白さを学べる記事を組むと同時に、隊の活動で得られた湘南地域の生きもの情報の蓄積・発信を行っています。

【主な研究・発表実績】

研究テーマ	実施年	発表先
平塚市内のセミのぬけから調査	2014～18年	平塚市博物館研究報告『自然と文化』, (38～42)
神奈川県におけるハルゼミの分布調査	2015～18年	平塚市博物館研究報告『自然と文化』, (39～42)
平塚市内のトンボ調査	2015～17年	神奈川自然誌資料, (38)(共著)
その他 ※	随時	神奈川虫報, Cicada, かまくらちょう等

※ヒラタクワガタ、クロタマムシ、ミナミアオカメムシ、トラフコメツキ、ヒメサナエ、タカネトンボ、ニッポンハナタカバチ、ヨツボシトンボ、コオヒムシ、ヒメナガメ、ミンミンゼミ(赤色型)、ハルゼミの生態観察例、アブラゼミ脱皮殻にみられる鳴形、他多数



SDGsは、2015年に国連で採択された「持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals)」で、17の目標で構成されています。「湘南自然誌」は、そのうち4つの目標への取り組みとして発行しています。

編集後記

今号の特集は、チョウの魅力と不思議をテーマとしたものになりました。昆虫は成長過程で大きく姿を変えます。同じ哺乳類である犬や猫のことは、ある程度は人間のあり方からの類推で捉えられるような気がしますが、昆虫は我々とは進化の歴史も形態もかけ離れており、その生態の理解は非常に難しいものです。しかし、その分あれこれ想像できる余地があったり面白世界です。そんな面白さが伝わる特集になっていたら嬉しいです。

◎鑑コーナーには過去最高数の生き物写真が集まりました。ページ数に限界があり、すべて載せられなかったのが残念ですが、見ごたえのある図鑑になったかと思います。ご投稿して下さった皆さま、ご協力ありがとうございました。最後になりますが、画像を提供して下さいました矢田誠規氏と加藤義氏(日本蝶類学会会長)、毎号生きもの同定にも協力していただいている岸一弘氏に感謝申し上げます。(富岡)